



N-BLOOD
NISMO Communication Magazine



2024 日産モータースポーツファンイベント



2024 Nissan Motorsports Fan Event



2024 日産モータースポーツ



SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Communication Magazine
2024 / April
No. **102**

nismo

Produced by Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd

NISMO Communication Magazine **N-BLOOD** 2024 / April No.102 Nissan Motorsports & Customizing Co., Ltd.

王座奪還への新章開幕

貪欲に勝利を求め、あらゆるカテゴリーの頂点へ

NISMOブランド40周年を迎える今年も、我々の姿勢が変わることはない

過去、現在、未来のいずれにおいても、体現すべきは「強いニスモ、勝つニスモ」――

知識と技術を総動員して千変万化の実戦に挑み、栄光への道を見出す

2024年、日産/NISMOの戦いにご期待ください

SAMPLE

- 4 **CEO INTERVIEW**
片桐隆夫
2024年シーズンに向けて
- 6 **2024 MOTORSPORTS FAN EVENT**
フォーミュラEとSUPER GT
王座奪取を宣言
- 8 **2024 NISSAN MOTORSPORTS PROGRAMS**
日産/NMC
2024年 モータースポーツ活動概要
- 12 **NEW FACE INTERVIEW**
三宅淳詞
新天地で臨むステップアップ
- 14 **STEP UP DRIVER INTERVIEW**
名取鉄平
ベテランと挑む最高峰クラス
- 16 **ENGINEERS' TALK**
レースエンジニア×データエンジニア
GT500のセットアップに
欠かせない存在にクローズアップ
- 20 **Nissan Z NISMO GT4**
Nissan Z NISMO GT4大解剖
進化の過程と新型車両の変更点を開発陣が語り尽くす
- 26 **FIA FORMULA E WORLD CHAMPIONSHIP**
唯一のナイトレース、ディルイーヤ
ローランドがシーズン初の表彰台獲得
- 28 **GT WORLD CHALLENGE ASIA**
日産/NISMOと共に戦うチームの
ガレージを訪ねて―TEAM 5ZIGEN
- 30 **40th ANNIVERSARY**
NISMOブランド40周年記念企画
知られざるNISMO～その1
- 34 **MOTORSPORTS**
PADDOCK TOPICS
- 36 **NISMO PRODUCT**
日産アリア (FE0) 用
NISMOパーツが続々登場
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
EIDOLON / DEEC
- 39 **PRESENT**
読者プレゼント



SAMPLE

CEO Interivew

片桐隆夫

日産モータースポーツ&カスタマイズ株式会社
代表取締役社長兼最高経営責任者

2024年シーズンに向けて

SUPER GT GT500クラスを筆頭に どのカテゴリーでもチャンピオンを目指す

期待の高まる新たなシーズンの幕開けを前に
片桐隆夫社長に体制変更の狙いや各カテゴリーの目標
そして日産/NISMOの目指すべきところを語ってもらった

タイトル奪還を目指す 2024年シーズン

まず、私たちのモータースポーツ活動の大きな柱であるSUPER GT GT500クラスは、ワークス活動としてチャンピオンを獲らなければなりま

せん。ご存じのように昨今のGT500クラスは非常に競争が厳しく、4チームのすべてが勝ち続けるほどの実力がないと、チャンピオンは獲れません。今回の体制変更は、先輩が若いドライバーをうまく導き、総合的な能力を高めて4チームすべてが勝てるようにしたいという狙いがありま

す。若手もベテランも、それぞれ優れている部分があり、各々うまく教え合い補い合う体制で、全体の底上げを図りました。

3号車の高星明誠選手は2年連続でチャンピオンを争い、経験も積んできました。タイヤメーカーは変わりますが、満を持してナンバーワンとして頑張ってもらいたい。三宅淳詞選手はGT500ルーキーですので、高星選手が引っ張ってくれればいいなと思っています。12号車は、星野一義総監督とも十分に話したうえでの決定です。23年はちょっと噛み合わない展開もありましたが、ドライバーの組み合わせは継続することにしました。これまでも日産陣営は共同で車両開発に取り組んできましたが、タイヤメーカーが違うことで、別々の方針になってしまう部分もありました。今年は新たにブリヂストンタイヤを使うクルマが3台になるということで、日産系チームが勝つために、さらに強固な共同戦線を張って戦いたいと思っています。星野総監督もその趣旨に強く賛同してくれて、『とにかく絶対に日産が勝とうぜ!』という意気込みで取り組んでいます。3号車、23号車の2台にとってみれば新たに学ぶべき部分もありますし、逆に12号車だけでは足りない部分を、NISMOのノウハウも合わせながら

情報共有し、かつてない深さの取り組みができています。

千代勝正選手も、高星選手と同様に3号車でいい走りを見せてくれていましたので、満を持して23号車に抜擢したかたちです。ロニー・クインタレッリ選手とともにエースとして頑張ってもらいたいと思っています。一方、24号車の強化も必要でした。タイヤのパフォーマンスが上がってきて、23年はポールポジションを獲り、表彰台に近い位置を走ることはありましたが、何か足りません。そこで、NISMOで培った経験を伝えるべく松田次生選手に加わってもらい、若手の名取鉄平選手を引っ張ってもらいます。

先にお話したように、若手とベテランの組み合わせによる活性化と、4チームがいつでも勝てるようにレベルアップを狙ってのラインナップとしました。ぜひご期待ください。

日本初開催のフォーミュラE ファンの前でいい走り

また、今年はフォーミュラE世界選手権の日本開催があります。これは持論でもあるのですが、パワートレインがどうであろうと、クルマである以上はそれを使って競争に勝ち、自分たちのクルマの優秀性を示すことがメーカーにとって必要だと思っています。電気であろうがなかろうが、クルマのエキサイティングな面に対するニーズは絶対なくならないと思います。

たとえば今から50年後、クルマがすべてEVになったとします。でも、電気自動車のSUPER GTをやっている可能性はあると思いますし、F1だって電気自動車になっている可能性もありますよね。いずれにしても、レースの興奮や熱狂は求められ続けると思っています。そのなかで、EVモータースポーツの世界選手権であるフォーミュラEに参加しない理由はありません。日産は長期的にもFEへの参戦を続けていくつもりですし、そこに対してNISMOが貢献していくのも当然だと考えています。しかもホームマーケットである日本開催もあります。東京の街のと真ん中での公道レースですから、盛り上がりがないわけがないと思っていますし、日本のファンの前でいい走りをしたいなと思っています。

GT-RとZの二本柱で戦う モータースポーツ

カスタマーレーシングの領域では、GT300クラスにNissan GT-R NISMO GT3が4台出場することになっています。KONDO RACINGとHELM MOTORSPORTがオフィシャルパートナーチームとなり、ドライバーの派遣や技術面についても、より深く踏み込みつつ、すべてのチームに対して最大限のサポートを行ってまいります。やはりGT-Rは勝つことが義務づけられた存在ですし、4チームがとにかく良い成績を挙げて、最終的にはチャンピオンを目指します。

もちろん甘くはありませんが、常に頂点を目

指さなければなりません。それはGT300クラスだけの話ではなく、スーパー耐久シリーズやGTワールドチャレンジ・アジアに参戦されるユーザーについても同様です。日産/NISMOのクルマを選んで走ってくださっているので、技術的にも部品供給等についても最大限のサポートをさせていただきます。

また、昨年登場したフェアレディZ NISMOは今季の活動の大きな軸になります。そのトップカテゴリーとなるのがGT500クラスです。空力面が大きく変わって、より競争力が上がるように開発を進めています。もちろんマーケティングと連動していて、フェアレディZ NISMOの発表タイミングを視野に入れて、モータースポーツの面からもサポートしようと考えました。そしてZ GT4も、新たにZ NISMOがベースになります。

特にZはアメリカ市場が強いのですが、我々はしばらく北米での活動は積極的には展開していませんでした。そこでZの導入を機に、北米日産のマーケティング活動の中にきちんとモータースポーツを組み込まなければならないという議論を数年前から始めていました。

アメリカにおけるZの歴史は、カスタマーレーシングの歴史でもあります。SCCAやIMSAなど、長きにわたってカスタマーに支えられてきました。スポーツカーとして売るためには、レースで誰よりも速くなければいけません。そのようにして紡がれてきた歴史があるので、その再現をしようと考えたのです。ですからNissan Z GT4

とNissan Z NISMO GT4の投入はももとのシナリオどおりというところでは

同時に、日本ではTEAM IMPULとTEAM ZEROONEがスーパー耐久シリーズで頑張ってくれています。これにより日米の両方で開発が進むことになりますし、アメリカのチームに対しても刺激になっています。今後はベース車両がZ NISMOに変わりますから、競争力がまた1段階上がると期待しています。もちろん、ベース車両が変わったからというだけではありません。量産車の空力パッケージをうまく利用し、これまでに学んだ様々な改善点を盛り込み、「新たに作り直した」と言えるほどの進化を果たしています。特にGT4カテゴリーはライバルの層が厚いので、本当にやり甲斐があると感じています。

40周年となるNISMOブランド 変わるもの、変わらぬもの

今年の9月に、NISMOブランドは誕生から40周年を迎えます。年末のNISMO FESTIVAL

も含め、様々な計画を練っているところですのでご期待ください。NISMOブランドとしての40年だけでなく、日産が創業3年目から続けてきたモータースポーツの歴史の多くを背負っているわけです。やはり勝つことが最も重要な任務であり、そのためには“できることはすべてやる”という姿勢で歩み続けてきました。その情熱がClub NISMO会員の方々から代表されるファンの皆さんに伝わり、我々も皆さんの期待に応えるべく努力を続けてまいりました。これからもNISMOロードカーを皆さんにお届けしながら、レースでは常に勝ち続ける——パワートレインがどうなるうとも、強いNISMOであり続けたいと思います。それがNISMOブランドのアイデンティティだと言えます。

私は日産に入社したのが1983年で、翌年に旧ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル社ができました。ともに歩んできたということで、他人のような感じがしません(笑)。それに、



片桐CEOは、2月15日の日産モータースポーツファンイベントで、24年の参戦体制の概要を紹介。新たなシーズンに向けた決意を表明した。各カテゴリーでの王座奪還に期待が高まる。

同社の前身ともいえるべき「日産宣伝部第3課大森分室」があった建物に学生自動車連盟の事務所を間借りしていた時期がありまして、大学の自動車部に所属していた私は、日産入社前から頻りに大森に行っていたのです。510ブルーバードのストラットを借りにいった思い出もありますね。それに日産レーシングスクールでは現役時代の星野一義さんにアドバイスをもらったりもしました。当時、富士でジムカーナを教わったという話を最近星野さんとしたのですが、憶えていただきました(笑)。

今年もモータースポーツ活動はもちろんのこと、NISMOロードカーやNISMOパーツなど、ユーザーの皆さんに喜んでいただけるように頑張ってもらいます。特にClub NISMOの皆さんのような、情熱的な日産/NISMOファンに支えられていることは、我々にとって非常に大きな財産です。どのカテゴリーでもチャンピオンを目指して戦いますので、これからも応援をよろしくお願います。

2024 MOTORSPORTS FAN EVENT

フォーミュラEとSUPER GT 王座奪取を宣言



2024日産モータースポーツファンイベントの様子は
こちらでチェック

2024日産モータースポーツファンイベント、変革のシーズンを強調

2024年シーズンに向けたモータースポーツファンイベントが今年もオンラインで開催された
タイトル奪還を狙うSUPER GTではベテランと若手によるコンビ結成
そして日本初開催が迫りつつあるフォーミュラEなど新時代の到来を強くアピールすることになった

ベテランと若手ドライバーによる相乗効果 4チームすべてがGT500王座を狙える体制に

日産自動車/日産モータースポーツ&カスタマイズ(NMC)は2月15日に、「2024 日産モータースポーツファンイベント」を開催しました。このイベントは、日頃から日産のモータースポーツを応援するファンの皆様楽しんでもらおうと、毎年2月に開催。今年も昨年に続き、多くのファンの方々に視聴していただきました。

イベントは2部構成で実施。まず第1部では日産モータースポーツ&カスタマイズの片桐隆夫CEOが登壇し、2024年シーズンの活動について説明しました。

「日産はたくさんのお客様や関係者に支えられて、昨年12月に90周年を迎えました。現在はカーボンニュートラル社会の実現に向け、車両の電動化に取り組んでいます。モータースポーツにおいても、日産は唯一の日本メーカーとしてEVモータースポーツの最高峰であるフォーミュラEに参戦しています。すでに今年の1月にサウジア



まず、片桐隆夫CEOが登壇し、2024年のモータースポーツ活動について説明。その後、Nissan Z NISMO GT500を披露した。

ラビアで開催された第3戦ではポールポジションを獲得し、決勝で3位表彰台を手にしました。この勢いを持って東京大会でもシーズン初優勝を目指し全力で取り組みます」とコメント。

また、SUPER GTに関してはニューマシン『Nissan Z NISMO GT500』の投入と、王座獲得を宣言。加えてSUPER GT GT300クラスや

スーパー耐久シリーズへの支援、アメリカにおける『Nissan Z NISMO GT4』プログラムのサポートに力を入れることも表明しています。

会場には『MOTUL AUTECH Z』と、スーパー耐久シリーズ ST-Z クラスに参戦する『raffinée 日産メカニック チャレンジ Z NISMO GT4』が展示され、煌びやかにライトアップされたステージで新たなカラーリングを公開しました。

片桐 CEO の挨拶に続き、SUPER GT GT500 クラスに参戦するドライバーと監督が登場。代表して挨拶を行った千代勝正選手は、「僕は小さい頃からクルマが好きで、NISMO は常に憧れのブランドでした。先輩方が作り上げてくれたこのブランドは、強くそして速くなければなりません。ここにいるメンバー全員でそのブランドを大切に、力を合わせて頑張りたいと思っています。ぜひ今シーズンも応援をよろしくお願いします」と、今季への意気込みを力強く宣言しました。

ちの走りを見せるのが楽しみです。今は緊張しているかもしれませんが、ステアリングを握れば、イケイケになるので安心して下さい(笑)」と、笑顔で千代選手をフォローしました。

これまでクインタレリ選手と23号車でコンビを組んでいた松田次生選手は、KONDO RACINGに移籍。24号車でコンビを組む名取選手について「ふたまりも年齢が違うので、まるで親子ですよ(笑)。僕の子供みたいな感じで、彼もイケイケで可愛いし、とてもいい子です。僕自身もKONDO RACINGに入って、やりがいを感じています。このふたりで協力して、ヨコハマタイヤをしっかりと開発し、勝てるチームにしていきたいです」と発言。これを受けて名取選手は「ロニー選手と次生選手が10年組んで今年チームが分かれたことをファンの皆さんは『熟年離婚』と言っているそうです(笑)。僕自身、次生選手の心をグッと惹きつけられるように頑張りたいです」とコメントしました。

松田選手と名取選手が「親子のような年齢差」という話題について、KONDO RACINGの近藤真彦監督が「彼らが親子ならば、僕はお爺ちゃんだし、星野(一義)さんはひいお爺ちゃんですよな?」と振ると、TEAM IMPULの星野一義総監督は「ふざけるんじゃないよ!」と反応。参加者の笑いを誘っていました。

続けて近藤監督はシーズン開幕に向けて「セバンのテストの日の朝、ふたりのドライバーとエンジニアと僕で、今年目標を語り合いました。『優勝してほしい』という僕からの言葉に力強く返事をしてくれたので、今年はどこかのラウンドで優勝できると思っています」と、明かしました。

GT500にステップアップを果たした3号車の三宅淳詞選手は「今年からGT500に参戦することになるので、やはり学ばなければならないことが色々あります。高星お兄ちゃんから、たくさん学べるように頑張りたいと思います」と、こちらも若さをアピール。満を持してエースとなる高星明誠選手は「千代選手とはとても良い成績を残すことができたので、チームが離れてしまうのか……と思いました。でも、今日の千代選手の緊張に弱そうな状況を見ると、別れて良かったかもしれません(笑)。三宅選手は緊張に強いと思うので、ふたりで頑張っていきたいです。これまでチームメイトは常に年上だったので、後輩と組むのは初めてですが、他のチームで監督やアドバイザーを



発表会に続き、第2部は、GT500クラスに参戦する4チームによるトークショーを行った。様々な裏話が飛び出し、爆笑の渦に。

やった経験もありますし、違和感なく馴染めています」と、こちらも笑いを誘っていました。

12号車の平峰一貴選手は、ベルトラン・バゲット選手とコンビを組んで3シーズン目。「オフシーズンもふたりで連絡を取り合っており、色々話していました。相変わらず僕らは仲が良く、『パンチの効いた、良い年にしたい』と話しています」と、強い絆をアピール。バゲット選手も「セバンでは良いテストができましたし、日本でもその自信を維持していきたいです。昨年、獲得できなかったタイトルを目指して、モチベーションを高く保っています。この勢いでハードにプッシュしていきたい」と、タイトル奪取を宣言しました。

トークショーの後半では、千代選手が自らカメラを持ってNissan Z NISMO GT500のディテールやカラーリングを紹介。特徴的なGノーズを含めた変更点や、「推しポイント」をアピールしました。締めくくりは各チームの監督が新シーズンに向けた意気込みを語り、GT500クラスのトークショーは幕を下ろしました。

続いてスクリーンに映し出されたのは、フォーミュラEの魅力を集めた動画『What is Formula E』。Gen3マシンの『Nissan e-4ORCE 04』に搭載されている最新テクノロジー、日産フォーミュラEチームのワークスドライバーを務めるサッシャ・フェネストラズとオリバー・ローランドが世界各地を転戦する様子、さらにチームインタビューなどが、たっぷり紹介されました。

イベントの最後には、日産が誇る電気自動車ラインナップのサクラ、リーフ、アリアが44度の高速バンクを走行する新しいテレビCM『THE WALL』篇を初公開。このCMでは、千代選手がアリア、高星選手がサクラのステアリングを握っていることが明かされ、電気自動車の加速や力強さをあらためてアピールしました。

ベテランと若手が丁々発止 大盛り上がるGT500トークショー

第2部は、GT500クラスの4チームによるトークショーを実施。23号車のエースを任せられることになった千代選手は、何よりも代表挨拶が緊張したと明かしてくれました。「代表挨拶では嘸んでしまっ……。これが、23号車のプレッシャーかと感じています(笑)。でも、ここでしっかり緊張感を味わって、今回で緊張感のピークは過ぎたと思うので、リラックスして頑張りたいです」

千代選手とコンビを組むことになったロニー・クインタレリ選手は「千代選手のスピードは知っていましたが、一緒に組んでみて分かったことは、そのモチベーションの高さです。テストでもチーム全員にやる気が伝わっていました。チームはとても良い雰囲気、ファンの皆さんに私た



GT500に参戦するクルーを代表し、今季MOTUL AUTECH Zをドライブする千代勝正選手が緊張の面持ちで挨拶を行った。



SUPER GTと並び、モータースポーツ活動の大きな柱であるフォーミュラE。レースの楽しさやワクワクは、EVになっても不変だ。